

I 実践

1 研究主題 人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

人権教育は、学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動である。

本校では、『集団活動を通して、お互いに認め合い、仲良く助け合う子どもを育てる。』『自ら進んで学習し、物事についての正しい見方や考え方ができる子どもを育てる。』『好ましい人間関係をつくり、だれに対してもわけへだてをしない子どもを育てる。』を人権教育の目標としている。

本校児童は、全体的には明るく素直であるが、時として自己中心的になったり相手を思いやる配慮に欠ける行動を起こしたりする児童も見られる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもを育成することをねらいとして本主題を設定した。

(2) 実践内容

- ア 人権が尊重される、人間関係づくり
- イ 人権が尊重される、学習活動づくり
- ウ 人権が尊重される、環境づくり

2 実践内容

(1) 人権が尊重される、人間関係づくり

ア Q-U の実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする児童を把握するため、2年生以上の各学級で5月・12月に実施している。5月の実施結果をもとに、今後の対策を計画・実行する。再び12月に実施し、前回と比較し、更に改善をはかっていく。

Q-U の集計結果は、二次元の表にまとめる。その分布がどのような形になっているかという特徴から、学級を「満足型」「管理型」「なれ合い型」「荒れ始め型」「崩壊型」の5つの状態に分類するため捉えやすくなる。そのため個別に支援すべき児童に応じた対応が読みやすくなり、その後の児童の変容も把握することができた。

イ 学校生活アンケートの実施

本校では、親との二者面談（11月）の前に学校生活アンケートを実施し、面談の資料として活用している。学校生活アンケートは生徒指導部が出しており、児童が各項目について記入する形式である。担任が一人一人のアンケートに目を通し、いじめ等問題がある場合はすぐ指導することができた。

ウ 縦割り交流会

本校では、7月に運営委員会が中心となって縦割り交流会を実施した。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアを組み、ジャンケン列車等のゲームを行った。児童は学年の分け隔てなく楽しい時間を過ごすとともに他学年の様子を知ることができたようである。3学期も実施する予定である。



(2) 人権が尊重される、学習活動

ア 道徳の授業公開

7月の授業参観では、全クラス道徳の授業公開を行っている。保護者に道徳教育の必要性を理解してもらうこと、人権教育を啓発することをねらいとしたものである。

イ 第4学年福祉体験学習

盲導犬（アイメイト）と共に生活をされている地域の方をゲストティーチャーとして招待し、講話をしていただいた後、実際に目の不自由な人のサポートの仕方を親子で体験することで、視覚に障害をもつ人への共感的理解が深まった。そして多くの児童が、目の不自由な人にとって町には不便な場所が多いことに気づくことができた。

さらに肢体が不自由な人についても疑似体験や車椅子体験を通して思いを知るとともに地域にあるバリアフリーや施設にも関心を持つようになった。



(3) 人権が尊重される，環境づくり

ア 「人権メッセージ」の取り組み

道徳の時間や朝の学活の時間等を活用して7月より全校で取り組み，各学級でとりまとめを行った。メッセージは，クラスで3点選考し，応募した。それ以外の作品に関しても，学年・学級の道徳コーナーなどに掲示することで，人権に対する意識を高めた。

イ 「ほめほめジャンケン」(ジャンケンをして，勝った方から先に相手のよいところ等を褒める。)

キャリア教育の授業として学級活動の時間に行った。

自分と友達のよさに気づき，自分や他者に対する肯定的な感情を育てることにより，温かな人間関係を作ることをねらいとしている。

児童はジャンケンの楽しさにつられ，多くの友達と積極的に関わる姿が見られた。ワークシートには，「またやりたい。」，「褒められて嬉しかった，照れちゃった。」など楽しく活動している様子や自己肯定感が高まったことなどがうかがえた。活動の様子をみていると，児童の褒め言葉から，友達一人一人をよく見ていることがわかった。担任も気づいていない児童のよさを知ることができ，以後の指導につなげることができた。

ウ 教職員の研修

校内研修の一つとして，特別支援を要する児童についての研修会を実施した。筑波大附属小学校の桂聖先生を招き，ユニバーサルデザインを取り入れた国語の授業について研修した結果，研修で学んだことを授業で生かすようになった。

3 成 果

(1) Q－Uの集計結果や学校生活アンケートから学級の実態を把握しやすくなり，いじめ予防に役立てることができた。児童の表情の変化を教師が意識するようになった。

(2) 道徳コーナーは，児童の考えや思いを掲示するため，休み時間に掲示物を見て友達の思いや考えを知ることができた。また，多くの児童が一人一人が様々な思いや考えを持っていることに気づいた。

(3) 人権メッセージ作りを通して，自分は，家族や友達をはじめ，多くの人々に支えられていることを再認識し，感謝の気持ちを持つことができた。

II 今後の課題

今年度は，各学年で様々なかたちで人権教育を進めてきたが，学校全体の取り組みは今一つである。今後は校内研修を通して人権意識を高めていくとともに人権教育全体計画の共通理解を深め，各学年ともにより実践的な活動を推進していきたい。また，環境面の整備も進めていきたい。

III 人権コーナーの設置

人権コーナーという名称では設置していないが，「道徳コーナー」の中に人権メッセージを掲示したり，道徳「心のあいうえお」という標語を掲示したりしている。また，職員室の廊下や学年の廊下に資料や児童の作品を掲示するなど，各学年で工夫を凝らしている。

